

■ 光が丘の戦跡巡り・・・



入居当時、むつみ台団地の南側に広がる畑の中に、「掩体壕（えんたいごう）」と呼ばれる飛行機用シェルターがポツンと残っていました。今回、光が丘に残る戦争の面影をテーマに記事を書くにあたって、まずそのことが思い出されました。早速その地を訪れましたが、残念ながらすっかり宅地に変貌し跡形もありませんでした。失望のあまりこの原稿を書く意欲も失せてしまったほどです。

ところが、便利な世の中になったものです。ネット検索の結果、人知れずひっそり1ヶ所だけ残存していることが分かりました。喜び勇んで出かけたのは言うまでもありません。それは、光が丘公園北「おふろの王様」&「ツタヤ」西側に立ち並ぶ住宅地の細い路地の奥にありました。

前もって知識を得ていなければ見過ごすような姿。何と50センチ以上もある分厚いコンクリートの天蓋の上にアパートらしき建屋が建っているではありませんか。下は物置として使われているようで、周囲には乱雑に日用品が散らかっていますが、確かに60年前の歴史が残っていました。

住所は赤塚新町3-29-5。所有者は公表を避けているようですが、通りすがりに見るくらいならOKとのこと。赤瀬川原平を気取った路上観察の対象にはぴったりです。

ついでに、あと2ヶ所立ち寄ることにいたしましょう。

まずは「フジ宝飾店」です。「おふろの王様」の先、川越街道との交差点には、グラントハイツ時代にアメリカ人相手の「Souvenir Shop（お土産屋）」が並んでいました。そして、そのうちの1軒だけが今も「FUJI」の看板を残しています。



もう1つが、光ヶ丘公園内に残る屋敷森（テニスコート南）に現存する「NO PARKING（駐車禁止）」の標識です。巨大なムクノキの下に静かに佇む赤サビまみれの姿は何とも哀れをそそります。当初撤去する予定であったと聞きますが、今にしてみれば、グラントハイツ時代の貴重な生き証人と言えるでしょう。



不適切かもしれませんが、戦争が故に私達はこの団地に住むことができたと言えるのではないのでしょうか。成増飛行場が生まれ、そのためにグラントハイツができ、そして、186haという広大な敷地に都内屈指の緑地公園と高層住宅街が広がる光ヶ丘団地が誕生したのですから。その意味でも、わずかに残る戦跡を辿ることは大きな意義があるように思えます。そして、是非残したい存在証明です。